

三大水力發電計畫實現化

(1) 鴨綠江水電開發事業

日滿兩國に於て設立計畫中であつた鴨綠江水電は先頃兩國間に於て正式調印を終り、愈々九月中には朝鮮鴨綠江水力發電會社、滿洲國鴨綠江水力發電會社の二大會社が設立される運びとなつた。兩社は其資本各5,000萬圓で、各2,500萬圓宛出資し、共同して鴨綠江及個門江の水力開發に當るので、其事業計畫は大略次の如きものである。

發電力 鴨綠江本流數個所に堰堤を築きて160萬K.W.の水力開發を目的とするものであるが、表向きは下流地方二個地點に於て合計約80萬K.W.の發電所を昭和16年迄に建設することになつてゐる。而して本年は第1期工事として平安北道朔州郡九曲面附近に發電地點を選び20萬K.W.の開發に着手されることになつてゐる。

(2) 第二松花江發電計畫

滿洲國の東北方の沃野を南から北に向つて流るゝ第二松花江(松花江の南支流)の吉林市より測ること約24軒の地點に重力型巨石混凝土の大堰堤を築造して治水並に發電計畫が遂行されようとしてゐる、堰堤地點に於ける流域面積42,500平方軒で堰堤の高さ(最大)80米、堰堤の全延長1,100米、之によつて出来る貯水池の満水位標高262.5米、最大水深21米、總貯水容量112億立米である。發電設備の概略を示すと次の通り。

平均有效落差	61米	平均使用水量
		毎秒 420立米
第一次發電設備	180 000kW (康德8年末完成の豫定)	
第二次發電増設	270 000kW (康德9年以降設備擴張)	
合計最大發電設備	450 000kW (これに對する	總計畫事業費は
		80,000,000圓)

本計畫は松花江根本治水の計畫の一部であつて本貯水池により廣大な土地の治水の調節機能を達成せしむると共に、吉林より下流京濱線に至る區間に於て16萬町歩の水害を除去し荒蕪地を化して肥沃なる農耕地となし在來農法を以てして尙年額200萬圓の増收を豫想し得られる。その他新しい水利計畫によつて水田72 000町歩の開拓(これによつて年額1 230萬圓の生産増と1萬戸の日本農民を移殖し得)水運の確實化、漁業の發達、遊覽的施設による觀光客の誘致等、國家的事業が期待される。

此の第二松花江水力發電計畫の世界的地位を比較してみると、堰堤混凝土量に於ては世界第三位發電所出力に於て世界第四位、貯水池容量に於て世界第三位であり、以てその規模の大なることが肯かれる。

(3) 虛川江水電開發計畫

朝鮮窒素肥料では豫て虛川江水電開發に付具體案作製中であつたが此程總督府に認可申請書を提出した。

該開發計畫によれば總出力35萬kW總工費1億1千餘萬圓と云ふ大規模なもので、計畫大要を示せば、

咸鏡南道豐山郡里仁面梨坡里を隔たる12軒の地點を貫流する虛川江支流熊耳江の水力を其合流點以前に利用し、黃水院、内中里、梨坡里の3堰堤の外熊耳江上流蓮頭坪に貯水池を設け、之を30軒の大隧道により梨坡里に導入、發電所は洪君、古坂、上農、古邑、牛徳の5ヶ所に設置し第1期最大7.5萬kW、常時4.8萬kW、第2期最大14.5萬kW、常時11萬kW、第3期最大7.3萬kW、常時5.1萬kW、第4期最大6.4萬kW常時3.8萬kW、第5期最大7.1萬kW、常時4萬kWを發電することになつてゐる。